

観V&Cリスト

日出彦

(2004.12-2005.1)

映画館には暫く行かなかったのですが、12月に一寸いやなことがあって何となく入ってしまいました。一方、Vの方は頻りに借りてはいるのですが、さすがに師走は忙しく、4本借りても2本しか見られないというような週が続きました。借りるとき、減らしておけばよいのに、大丈夫見られると勝手に判断して、失敗を繰り返してきました。

【初蕾】（V）TBSで放映された山本周五郎の人情一幕もののドラマ化です。主演はシュウの宮沢りえで、脇を池内淳子、宇津井健、若尾文子、泉ピン子などが固めています。ストーリーは単純でHappyエンドですが、最後に一寸したどんでん返しがあって、皆いい人ばかりの結末です。料亭の女中お民役の宮沢が生き生きしていて出色の出来です。☆☆☆



【盲獣と一寸法師】（V）石井輝夫監督のカルトムービーというので借りてきました。タイトルで分かるように江戸川乱歩の2つの長編を合成した内容で、エロというかグロというか、小説のエピソードを可能な限り再現しているといつてよいでしょう。どんな内容かは乱歩を読んで下さい。丹波哲郎が高名な彫刻家として最後に急に出てきて盲獣が作った”触覚芸術“品を割ってしまつて終わりです。☆☆★

【地獄】（V）中川信夫監督の名作がありますが、これは石井輝夫版です。現実の事件を再現していて、地獄で犯人が鬼どもにお仕置きされるお話です。冒頭の女兒誘拐殺人犯のエピソード（宮崎勤がモデル？）は奈良での女兒誘拐殺人犯が捕まった直後でしたので、すごくリアルに感じました。本論は主人公が入信していた宇宙真理教のエピソード、すなわち地下鉄サリンなど一連のオウム事件の再現です。閻魔大王が女性であるというのが振るっていますが、最後に丹波哲郎が忘八者として出てきて、地獄の鬼どもを切り伏せて「生きるも地獄、死ぬも地獄」といって去っていく意味不明の結末です。☆☆★

【紅の拳銃】（V）事故で夭折した赤木圭一郎の代表作である。日活アクションでストーリーは他愛もないが、赤木のかっこよさを楽しめばよい。日活西部劇の醍醐味を味わえます。☆☆

【エーリアン vs プレデター】（C）これは2大悪役の激突ってところでしょうか。前半は両者とも人間をバリバリ殺して行きます。後半はエーリアンシリーズのシガニー・ウイバーのように女性の隊員が活躍しますが、人間に近いプレデターの方に味方する形でエーリアンをやっつけようとしています。何か日本の現状を表しているように感じるのは自分だけでしょうか。☆☆★

【ゴジラ ファイナルウォーズ】 (C) これは子供向けまんがゴジラに回帰したゴジラ譚です。ミニラが出てくると、もうそんな世界に入ってしまいます。ミステリアンみたいなX星人が出てきて、過去のいろんな怪獣を次々に作り出しゴジラと戦わせます。なつかしのアンギラスやエビラも出てきます。最後はもちろん*****ですね。海底軍艦も出てきますよ。なにがファイナルウォーズなのか分かりませんが、また登場しそうな幕切れです。ゴジラはやはり不死身です。☆☆☆



【マタンゴ】 (V) むかし劇場で見て面白かったのを覚えていて、DVDを借りてきました。久保明、水野久美という懐かしい顔ぶれで、福島正美と星新一が原案したというだけあって今でも楽しいストーリーテリングです。原作はウィリアム・ホジスンのものですが、これも一読を進める不気味な短編です。円谷作品ですが、今だったらもっと特撮に凝ると思います。☆☆☆

【修羅雪姫】 【修羅雪姫 恨み恋歌】 (V) キルビルの挿入歌にもなった梶芽衣子の主演作品で、監獄で生まれた女の子が長じて一匹狼の殺し屋になる話です。小池一雄／上村一夫の劇画の映像化です。殺しの場面がとても美しい絵になっていて、鬼平でもそうでしたが、梶芽衣子は鬍物ではとても美人になりますね。☆☆☆



【キルビル Vol.2 ザ・ラブストーリー】 (V) ああ、借りなきやよかったというDVDでした。キルビルは前作で十分。今作のマカロニウエスタン調は自分にはしっくり来ませんでした。ストーリーは起伏に富んでいて結構面白いのです。片目の殺し屋との戦いは面白かったです。タランティーノはいろんなパロディをやってみたかったのでしょうね。☆☆